

OGINO NEWS

『夏のサイディング特集』

荻野ニュース平成27年夏号

編集発行：荻野化成株式会社

サイディング塗装の注意点とおすすめの塗替えスペックを紹介。

特集！
サイディング
塗替え



日本人の洋風指向と施工の容易さによって、1990年頃から戸建住宅に急速に普及し始めた「サイディングボード」は、現在の戸建塗替え市場においても大きな割合を占める外装材です。「窯業系」「金属系」「合成樹脂系」「木材系」などの種類がありますが、何と言っても「窯業系サイディング」が主流である事は申し上げるまでもありません。近年は高意匠・高機能な商品が市場に出回っており、塗替えに注意が必要な場合も増えてきました。私の知る限りではサイディングボード専用の塗替え工法は、かれこれ20年前に登場した関西ペイント(株)の「SBポリマー処理」が最初のものだったかと思えます。それ以来サイディングボードの変遷に合わせる様に塗替え仕様も進化して来ました。アクリル系やウレタン系だったものがシリコン系が主流になり、高意匠サイディング用にはクリヤータイプの改修専用塗材が開発されました。今回はサイディングボードの塗替えにスポットを当てて、塗替え時の注意点と、お奨め商品についてまとめてみました。

クレームは嫌だから、現調は慎重に。 こういうサイディングには注意です！

一昔前まで多かった不具合の原因に「シーラー板に直接上塗りをかけたら、後で剥れてきた。」というものがありませんでしたが、今ではサイディングボードの進化につれて「剥れ」の原因も変わってきている様です。

「直貼りはハイリスク」サイディングの貼り方が「直貼り」である場合ですが、近年標準である通気構法の様子に湿気が逃げませんので、ボードと防水紙の間に結露が起きやすく、そのためボードが吸水して、表層の塗膜に膨れ・剥れ、ボード本体には反りが発生します。貼り方を確認するにはボード下部と水切りの隙間に定規を差し込んで計る方法があります。ボードの厚みは通常12mmから15mm程度ですので、25mm以上あれば通気構法の可能性が高いですが、これ以下だと注意が必要です。「直貼り」だと不具合の起きる可能性が大変高いので、然るべき対応が必要になります。表面状態と併せてご確認ください。

「旧塗膜は何か？付着は大丈夫か？」次に旧塗膜が弾性系塗料など熱によって軟化する塗料の場合です。夏場のボードはモルタルの場合に比べて表面温度で10℃～15℃高くなりますので、塗替え時に濃い色を使うと、塗膜の蓄熱によって旧塗膜の弾性塗料が熱で軟化して膨れが発生する事があります。淡色ゆえに何とか耐えていたものが、やや濃色にしたために一気に…というケースです。最近では濃い色を希望する方も多いようですので注意が必要です。他には旧塗膜の付着力不足により大きなクレームになった事もあります。「柔らかくないか？」「しっかり付着しているか？」旧塗膜のチェックは必須です。

「どんな表面状態か？」サイディングの進化は機能性の付与によく表れています。昨今は光触媒コーティングが施されているものも出回っていますが、撥水処理されているものとともに要注意です。また、ラッカーシンナーのテストで溶けない場合も注意が必要です。特に築年数の割に状態が良く、チョーキングなどが見られない場合や、意匠的に凝っている物は、フッ素樹脂や無機コーティングの可能性があるので、何はともあれ、施主さんに確認してみた方がいいかと思えます。

「シーリングは大丈夫？」何と言ってもシーリング材の状態は重要です。劣化が進み、ヤセなどがある場合は、サイディングが吸水して反ってくる原因となります。特に20年以上前のタイプは吸水しやすいと言います。一度反ってしまったらもう元に戻せませんし、更なる不具合の原因となります。塗替え時にはシーリング材にも手を入れるべきでしょう。たまにですが、現調時に部分的に反りが出始めているケースもある様で、この様な場合、施主さんへの注意喚起を行っておかないと、暫くして自社の責任にされてしまうケースも…。皆さんもご経験あるかと思えます。「プロでしょ。お宅は。」と言われるんですよ。私も何度か言われました。



サイディングボード用スペックに注目！「シリコンの上を行く」新世代の差別化商品はこの2つ！

『パーフェクトシリーズ』 日本ペイント(株)

かつて日本ペイントが展開した「シリコン伝説」シリーズは、それまでウレタン主流だった戸建塗替市場を一変させました。その日本ペイントが新たに創り上げた潮流が『パーフェクトシリーズ』です。様々な被塗物に対応する専用下塗材と、ラジカル制御技術によって美しい艶・高い耐候性を与えられたトップコートの組合せは、現在主流のシリコングレードを遥かに超える塗膜性能を実現しています。シリーズカタログはページごとに、主婦向けにはイメージを強調、ご主人向けには技術と性能を強調するという構成になっています。このあたりはさすがという感じで、「ニッペさんのカタログは説明しやすい。」という施工店の皆さんがおっしゃるのも頷けます。また、注目すべきはサイディングボード用の下塗材『ニッペファインパーフェクトシーラー』です。弱溶剤2液形エポキシでありながら、前ページで「塗装前に要確認」と書いた光触媒や無機系コーティングが施されたサイディングボードに対応が可能という性能を持っています。



『エスケーププレミアムシリーズ』 エスケー化研(株)

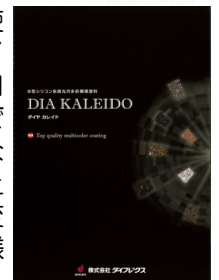
このエスケー化研『プレミアムシリコン』ですが、こちらも紫外線から塗膜の劣化を守るトリプルガード効果を謳い、カタログ内では期待耐用年数をメンテナンスサイクル表として大きく取り上げていて、施主さんにもアピールしやすいカタログ構成になっています。一昔前までは、例え「期待」耐用年数であっても積極的に外部発信していなかった事を思うと隔世の感がありますが、それはこの『プレミアムシリコン』が自信を持って展開出来る商品だという事に他なりません。下塗りに関しては『エスケーハイブリッドシーラー-EPO』の使用により「要注意サイディング」への対応を可能としている点は同様ですが、窯業系サイディング用フィラーとして水性タイプに加え、『マイルドSDサーフエポプレミアム』という弱溶剤タイプのフィラーをラインナップしている点が異なります。どちらを自社の定番として使うかは皆様次第です。資料をご検討の上でじっくりと戦略、戦術を考えてみて下さい。カタログ等のご用命は担当者または各事務所まで。



多彩模様タイプの新商品！ 従来の単色塗料に無い立体感と深みの秘密は…

『ダイヤ カレイド』 (株)ダイフレックス

サイディングボードの改修用塗料には、単色塗漬しのエナメルタイプと、高意匠サイディングに使用するクリアタイプ、多彩模様タイプの3種類があります。ここでご紹介する『ダイヤ カレイド』は多彩模様タイプの商品です。多彩模様ということ、関西ペイントの『水性ゾラコートEX』や日本ペイント『水性ペリアートUV』などが有名ですが、この『ダイヤ カレイド』は顔料カプセルで意匠性を持たせる従来の多彩模様塗料とは異なり、カラーフレイクの配合による光沢のある立体的な仕上がりが、高級感・重厚感を演出します。更に特筆すべきはその高耐候性で、顔料を配合しない上塗りのシリコンクリアーはチョーキングが発生しにくく、特殊カラーフレイクは淡色顔料に比べて変退色が起こりにくいという特性を有しています。設計価格は6,400円/m²と、これまでの多彩模様塗料と比べてワンランク以上高い価格帯ですが、施主さんにその仕上げを見てもらえれば納得してもらえる筈です。まず色見本をご覧いただき、その上で自社戦略の一環としてご採用頂ければと思います。



下塗材の使い分けは面倒くさい。幅広い用途にこれ1本で対応！

『マイティー万能エポシーラー』 大日本塗料(株)

塗装の大変さと言えば、天候や作業環境など多くの要因が思い浮かびますが、被塗物に対する下塗材の使い分けもその一つだと言えます。これは下塗材自体が、対象とする被塗物・部位への使用を限定して設計され、且つ商品展開とも密接に関わっていたためでした。しかし近年の塗料の進化は省工程とともに下塗材の兼用も可能にしつつあります。この万能シーラーは「あらゆる素材にオールワン」というキャッチフレーズ通り、屋根・壁・金属(アルミ、ステンレス)などへの使用を可能にし、幅広い旧塗膜への適応を可能にした弱溶剤二液エポキシ樹脂シーラーです。これならネタ場もすっきりとする事でしょう。現場・車内にぜひ1本常備下さい。



トラスコ中山(株)



これはお得です!!

スクラブ剤配合ハンドソープ

『洗手観音』1.1L×2本セット

ネット販売などで通常1本1,000円前後の商品を**2本で!**

980円! (税別)

*在庫無くなり次第終了になります。ご注文はお早めに! 弊社担当者にお申し付け下さい。



お問い合わせは下記事業所まで

荻野化成株式会社



横須賀本社 電話 046-834-1611

横浜支店 電話 045-830-5871

青葉営業所 電話 045-937-5505

東京営業所 電話 03-5480-1666

茨城営業所 電話 029-879-7906

柏営業所 電話 04-7197-7351